

見方を変える「北方領土」

立命館慶祥中学校 二年 石田 隼太郎

僕が「北方領土」という問題を意識するのは、根室や釧路の漁船が、ロシア領域の海に入って、拿捕されたというニュースを目にする時だった。

今、改めて「北方領土」について地域性、現在住んでいる人のことを調べて、考えてみようと思う。

日本の政府は、「北方領土」として、千島列島の歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島を日本の領土と言っている。しかし、今はロシアの領土であり、ロシア人が住んでいる。北海道に一番近い島は、歯舞群島の貝殻島で、ノサップ岬から3.7km。

「北方領土」については、様々な本が出ている。日本人が著者であれば、「北方領土」は日本固有の領土と記されている。しかし、一方、ブリタニカ百科事典の英語では、千島には、ロシア人が最初に住んでいたが、日本人が島を奪い取り、住み始めたという文章が載っている。領土問題は、本当に難しい問題だと思う。僕は日本人であり、日本固有の領土だと思っているが、ロシアの中学生はどう思っているのだろうか。元島民の方々も高齢となり、直接話を聞いたりすることは、難しいと思う。各々の国に各々の文献や歴史認識があり、それをどのように理解しあえるかが、これからの道ではないだろうか。

以前、サハリンの幼児が全身に大やけどを負った時に、北海道の病院が手を差し伸べ、手術をして、幼児の命を救ったという話を僕は聞いた。そこに、領土問題という壁を越えた”命の重み”を思う。「人道的支援の輪」があったと思う。その幼児は成長した現在、医者や手を差し伸べてくれた人々への感謝の思いをもちつつも、領土問題をどう感じているのだろうか。この二つの事柄を別問題としているかもしれないが、「領土」とは、その国だけで、その地域だけで、そこに住んでいる人々だけで生活できるものではないと僕は思う。資源があれば、自国だけで使うのではなく、他国に輸出して利益をあげれば、生活ができる。

一方的に海を埋めたり、自国の利益のみを求めているのは、人の交流も経済の交流も生まれないと思う。

確かに、「領土」は、その国の政治・経済を担うものだと思うが、戦争や歴史的認識等、どんな難しい問題をもわかち合い、「共に地球上で生きる道」へ歩んでいけたらと思う。

そこにある資源を共に使い、「北方領土」しかできない”人と人との和”、”経済交流”、”医療の連携による命のかけ橋”ができることを希望してはいけないだろうか。

現在、はるか遠い宇宙ステーションの中で、ロシア人・日本人・アメリカ人がタッグを組んで、宇宙の神秘に取り組み、共に歩んでいると思う。

「北方領土問題」にしても、政治の手腕が必要だと思うし、日本人の心の豊かさ・広さを世界にアピールしていくことが必要だと思う。そして、日本の「北方領土」に対する思いを世界中に広めて、平和的解決につながっていったらと思う。